

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 日鉄物産株式会社（証券コード：-）

### 【変更】

長期発行体格付      AA- → AA  
格付の見通し      安定的

### 【据置】

国内CP格付      J-1+

### ■格付事由

- 日本製鉄（日鉄）グループの中核商社。23年4月に日鉄が出資比率を引き上げ、同社の連結子会社となった。主力の鉄鋼事業は原料調達から顧客への製品納入まで、総合的なサービスを展開する。このほか、産機・インフラ、食糧、繊維などの事業も手掛ける。現在の日鉄の持分比率は80%で、残りの株式は三井物産が所有する。当社は18年に三井物産の鉄鋼事業の一部を譲り受けたほか、22年には同社の子会社と当社の繊維事業を統合し、MN インターファッションを設立した。
- 日鉄による支援の蓋然性が高いことを踏まえ、格付には同社の信用力を強く反映させている。23年4月にJCRが格付を見直して以降、計画に沿って、日鉄の出資比率が80%に引き上げられるとともに、両社のシナジー発揮に向けた取り組みが緒についている。支配・関与度や経営的重要度の評価を変更する必要はなく、引き続き、日鉄による支援の蓋然性は高いと判断できる。23年10月に日鉄の長期発行体格付を「AA」に引き上げ、格付の見通しを安定的としたことを踏まえ、当社の格付も1ノッチ引き上げ「AA」とし、見通しは安定的とした。
- 23/3期の経常利益は513億円（前期比7.4%増）と過去最高を更新した。24/3期も数年前に比べて高水準の利益を確保できる見込みである。グループ会社や営業拠点の統合・再編、人員効率化など事業基盤強化の取り組みを通じた固定費の削減により、コスト競争力が強まっている。鉄鋼事業を中心に新規需要の捕捉などの成長戦略の成果も表れている。国内鋼材価格が高位で推移していることも、引き続き利益の下支えとなる。鉄鋼以外の事業は、規模は小さいながらも、総じて安定して利益を確保できる状況にある。日鉄グループとのシナジー発揮に向けた取り組みとその効果が注目点となる。
- 23年3月末の自己資本は3,000億円超と厚みがあり、自己資本比率は27.5%である。鉄鋼商社として健全な財務体質を維持している。25年に予定するメキシコでの電磁鋼板コイルセンターの新設をはじめ、日鉄と連携した成長投資が増えるとみられるが、それらにも柔軟に対応できると考えられる。鋼材市況の上昇に伴う運転資金の増加により、近年、有利子負債は増加している。ただ、今後は営業キャッシュフローの回復や利益の資本蓄積の進展が見込まれ、財務構成は中期的に改善に向かうと想定される。

（担当）水川 雅義・佐藤 洋介

### ■格付対象

発行体：日鉄物産株式会社

#### 【変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的

#### 【据置】

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	1,200億円	J-1+

## 格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2023年11月10日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：窪田 幹也  
主任格付アナリスト：水川 雅義
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「鉄鋼」(2022年6月15日)、「企業グループの傘下会社の格付方法」(2022年9月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 日鉄物産株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：  
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であることを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル